



130 年を経て，わが国最古の学校建築である体操場，今に甦る

研究成果のポイント

- ・わが国最古の学校建築「体操伝習所体操場」の体操場新営仕様書，伝習所設計図書，体操器械図を新たに発掘。
- ・それらを元に，これまで断片的な写真でしか知り得なかった「体操伝習所体操場」の建築形態，小屋組などの構造を詳細に再現。

研究成果の概要

本「体操伝習所体操場」模型（※2P写真）は、『体操場新築参考資料』（1879，京都大学文書館所蔵）中の「体操場新営仕様書」及び「伝習所設計図書」を丹念に読み込み，設計図面に忠実に建ち上げたもので，これまで断片的な写真でしか知り得なかった体操伝習所体操場の建築形態，小屋組などの構造を詳細に示したものです。加えて「伝習所設計図書」中，体操器械図に示された当時の体操器具を内部に再現したものであり，これまで建築史研究では知られていなかった明治初期洋風建築の一事例として，また初期の学校体育施設の内部空間や体操器具の配置等を具体的に再現した事例として，非常に貴重なものといえます。

研究成果の概要

（背景）

これまで「体操伝習所体操場」の復元は，設計図書が未発見であったため，見取図や当該体操場をモデルに設立された文部省直轄大阪中学校を参考にせざるを得ませんでした。この度，北海道大学大学院教育学研究院の大櫃敬史教授により新しく発掘された体操場新営仕様書，伝習所設計図書，体操器械図を手がかりに，当時の体操場の威容を今日に再現することに成功しました。

（研究手法）

大櫃教授は，北海道大学大学院工学研究院の角 幸博特任教授（北海道大学名誉教授，当時工学研究院教授）との共同研究により，官立体操伝習所体操場を模型製作により復元させました。なお，復元模型の設計図作製は，伊藤 桜氏（当時工学研究科建築史意匠学研究室修士2年）が，実際の模型製作は橋本孝幸氏（ビーズファクトリー）があたりました。

（研究成果）

これまで余り良く知られていなかった初期洋風建築—わが国最古の学校建築（体操場）である，体操伝習所体操場の建築形態，小屋組などの構造を詳細に示し，初期の学校体育施設の内部空間や体操器具の配置を具体的に明らかにしました。

（今後への期待）

体育史研究の推進はもとより，日本近代建築史上においても，一体育施設である当該建築物は，72尺×60尺という無柱大空間を可能ならしめているという点でも近代建築技術史上，極めて重要な建築物である

といわねばなりません。以後この様な仮説を持って、明治初期の全国の洋風建築という枠組みの中で本建築を捉えていく必要があります。その意味で、本研究は今後当該分野の研究成果を大きく前進させるための貴重な第一歩です。

お問い合わせ先

所属・職・氏名：北海道大学大学院教育学研究院・教授 大櫃 敬史（おおびつ たかし）

TEL：011-706-5439 FAX：011-706-5439 E-mail：obitsu@edu.hokudai.ac.jp

i 小屋組：屋根を支える屋根裏の骨組み。和風小屋組みの折り置き組み・京呂組み，洋風小屋組みなどがある。

【参考資料】



体操伝習所体操場復元模型（縮尺 1/50）



体操場の内観（重厚な屋根に特徴あり）



体操場の内観

（当時、使用されていた体操用具が見られる。）